

平成28年12月2日
(2016年)

保護者の皆様へ

吹田市立片山中学校
校長 由上 正幸

平成28年度全国学力・学習状況調査について

本年度、3年生を対象として「平成28年度全国学力・学習状況調査」を実施し、10月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 調査結果の概要

□学力に関する調査内容

◆国語A・国語B、数学A・数学B

◇A問題：主として「知識」に関する内容（基礎基本）

◇B問題：主として「活用」に関する内容（応用）

□全ての科目の平均正答率について

国語【A及びB問題】、数学【A及びB問題】において、全ての科目で本校生徒の平均正答率は、大阪府（以下大阪値）及び全国の平均正答率（以下全国値）を上回っていました。

□国語 ※主な成果と課題

①A問題では、「話す・聞く」「書く」「読む」「言語事項」の全ての領域において、大阪値は上回っていますが全国値との差はほとんどない状態です。また、B問題においても、「国語への感心・意欲・態度」「書く」「読む」の全ての領域において大阪値は上回っていますが全国値との差はほとんどない状態です。無解答率も問題によっては大阪値・全国値を上回っているものがありました。

②A問題において、「読む」領域では「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」設問において大阪値及び全国値を大きく上回り高い正答率でした。

また、また、「読む」領域では、「文章の構成や展開について自分の考えをもつ」設問において、「話す・聞く」領域では「話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する」設問において大阪値及び全国値を下回っており、課題が見られました。

③A問題における「短答式」の設問の全てにおいて、大阪値及び全国値を上回っていました。

④B問題において、「書く」領域の設問で、根拠を明確にして「自分の考えを書く」主旨の設問では、正答率が低く、また、無解答率も他の設問に比べ高くなっており、課題が見られました。

【授業改善の視点】日常の学習活動において、自らの考えを発表する活動を多く取り入れるとともに、考えたことを文章にして書く学習活動にも取り組むことで、話す・聞く能力の向上にも努める。

□数学 ※主な成果と課題

- ①A問題及びB問題とも、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の全ての領域において、大阪値及び全国値を上回るとともに、無解答率も下回っていました。
- ②A問題において、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の全ての領域における「知識・理解」や「数学的な技能」を問う設問で高い正答率でした。一方で、「数・整数・自然数」という数の範囲や「作図をすることで何が得られるか」を問う設問で正答率が低く、課題が見られました。また、「変化の割合」「具体的な事象と関数の結びつき」「資料からの読み取り」に関する設問では、無解答率が高く課題が見られました。
- ③B問題においては、大阪値及び全国値を上回っているものの、「図形」「関数」「相対度数」の領域において、正答率の低い設問や無解答率の高い設問があり、課題が見られました。特に、「知識・理解を活用して事象を数学的に説明したり、根拠を明確に示したり、適切に表現したりする」主旨の設問に多くの課題がありました。

【授業改善の視点】 小学校との連携を生かしながら、基礎・基本的な事項を徹底する。また、数学的な考え方を通して、多面的に物事を捉えることができるようにするとともに、具体的な事象から式やグラフを作ったり、式やグラフから事象を読み取ることができる力を育む。授業では、解き方を自分で説明することができる学習活動を多く取り入れる。

□学校生活・生活習慣

- ①「学校に行くのは楽しいと思う」と8割程度の生徒が肯定的に答えています。また、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と8割強の生徒が肯定的に答えています。
- ②「毎日朝食を食べている」生徒は8割弱で、全国値と比べるとやや下回っています。
- ③「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」と肯定的に答えた生徒が9割以上、「自分にはよいところがある」と肯定的に答えた生徒は7割以上で、共に全国値を上回っています。
- ④「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である」と肯定的に答えた生徒は5割弱で、全国値と比べるとやや下回っています。
- ⑤ 平日の家庭学習（学校以外での学習）が1時間を超える生徒は7割以上ある一方、「自分で計画を立てて勉強する」と肯定的に答えた生徒は5割弱にとどまっています。また、家庭での教科書や参考書、漫画や雑誌を除く読書について「全くしない」と6割弱の生徒が回答しています。
- ⑥ 授業において「自分の考えを発表する機会が与えられている」と肯定的に答えた生徒は7割強、「生徒の間で話し合う活動をよく行っている」と肯定的に答えた生徒は6割強、「クラスやグループで自分たちが課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表する等の学習活動に取り組んでいる」と肯定的に答えた生徒は6割弱であり、共に全国値を下回っています。授業方法の工夫・改善について課題が見られました。

2. 今後の取組み

- (1)「授業ルール」「授業規律」を徹底し、一人ひとりの生徒に「授業をしっかり受けることが自らの自己実現につながる」という自覚が育つよう取り組みます。
- (2)「学ぶことが楽しいと実感できる」授業づくりを進め、「わかった」「できた」喜びから一人ひとりの学習意欲を育みます。
- (3)宿題や課題プリントの提出、忘れ物、ノート指導等、学習への取り組み姿勢に関わる指導を徹底し、学習習慣が定着するよう取り組みます。
- (4)学校行事の取組等を通して、一人ひとりの生徒のやる気を育むとともに、「頑張ることが大切にされる」機運を醸成します。